

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 3 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25244030

研究課題名(和文) 帝国日本の移動と動員

研究課題名(英文) Movement and Mobilization of the Empire of Japan

研究代表者

今西 一 (Imanishi, Hajime)

大阪大学・文学研究科・招へい教員

研究者番号：20133621

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 35,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、帝国日本の領域である、台湾・樺太・朝鮮・満洲・太平洋諸島について個別事例を分析し、移民と動員の問題を考えた。その結果、日本人移民がもたらした問題、植民地住民が直面した問題が明らかにされ、それらが帝国の時代には強制的・暴力的な性格を持つこと、にもかかわらず主体的な選択により移動する人々が多数存在し、帝国日本には生活者に媒介された独自の時空間が広がっていたことが鮮明となった。また、特にジェンダーの視点から植民地における女性の問題を取り上げ、従来の研究では弱かった樺太など北方史にも切り込むことができた。

研究成果の概要(英文)：In this research, individual cases of territories occupied by the Empire of Japan, including Taiwan, Sakhalin Island, Korea, and the Pacific Islands were analyzed, and issues of immigrants and mobilization were examined. As a result, (1) issues resulting from Japanese immigrants and issues facing colonials were clarified, which had compelling and violent characteristics during the period of the Empire; (2) nevertheless, it became clear that there were a number of people migrating by independent choice, and a unique time and space that was being created by residents was spreading through the Empire of Japan. In addition, from the viewpoint of gender, women's issues in colonies were addressed, and this research was also able to cover the Northern history, including Sakhalin Island, which was not fully covered in previous studies.

研究分野：日本史

キーワード：帝国 移動 国際研究者交流 台湾 韓国 満洲 樺太 動員

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 研究代表者は、2009年度から2012年度まで基盤研究(B)「19~20世紀北東アジア史のなかのサハリン・樺太」の交付を受け、日本史学における研究の空白地域と言ってもよい樺太における人的交流を、北東アジア史に位置付ける研究を進めた(以下、共同研究)。そして、特に重要な存在であった朝鮮人に絞って、今西一編著『北東アジアのコリアンディアスポラ』(小樽商科大学出版会、2012年)を刊行した。また、その成果をもとに研究代表者は、韓国政府記録保存所から、2013年に日本、韓国、ロシアによる樺太・サハリンに関するワークショップを開催することへの協力要請を受けた。

(2) 以上の経緯の中で、北東アジアを中心に、より広域的な空間の下に、これらの成果を発展させることが急務であると考えに至った。近年の植民地史研究には、蘭信三編著『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会額』(不二出版、2008年)や、北東アジアの多民族についてイゴリ・R・サヴェリエフ『移民と国家』(御茶の水書房、2005年)が、さらには戦時動員については西成田豊『中国人強制連行』(東京大学出版会、2002年)などが現れている。しかし、帝国を俯瞰したものは蘭編著のみで、同書も被支配民族の移動や境界地域には注意を払わず、支配民族の膨張過程についても日本人への言及に止まっている。

## 2. 研究の目的

(1) 共同研究では、ベネディクト・アンダーソン『定本・想像の共同体』(書籍工房早山、2007年)が指摘した、被支配民族の植民地間移動は「帝国日本」でも大勢ではないが、それがポストコロニアルな諸問題を発生させ、現代的な民族問題の発端であることを確認した。また、石原俊『近代日本と小笠原諸島-移動民の島々と帝国』(平凡社、2007年)では境界地域での移動の重要性、さらに三木理史『移住型植民地樺太の形成』(塙書房、2012年)では帝国支配民族の膨張地域として見る必要性が、各々指摘されている。そこで本研究では、共同研究での植民地を一つの地域として見ること、その地域社会を中国人、朝鮮人、日本人などが構成する複合的な多民族社会とみなす、という枠組みを継承・発展させる。その際、被支配民族の植民地間移動、国民国家の境界地域、帝国支配民族の膨張過程、の3本の柱を立て、各々について平時の「移動」と戦時の強制・強権性の強い「動員」の相違に留意しつつ、「帝国日本」を広域的に分析する。

(2) 共同研究での枠組みであった人的交流と地域社会の形成という視点を継承し、「帝国日本」における「外地」と「内地」の相対化と横断的分析という視点をより重視する。共同研究で注目してきた朝鮮→樺太のような植民地の被支配民族間の移動・動員

はこれまでほとんど注目されておらず、若干の事例を検証したが、研究期間と研究費の限界から不十分なものに止まっており、本研究ではこうした課題の解明に本格的に取り組む。

## 3. 研究の方法

(1) 研究代表者と15名の研究分担者を中心に研究組織を構築し、被支配民族班、境界地域班、帝国支配民族班の3班を構成し、研究目的の達成を目指す。

(2) 国内植民地については、外務省外交史料館、国立公文書館等の所蔵する資料をデジタルアーカイブも含めて収集し、渡航地域の文書館の記録資料の調査、収集を行う。

満洲・朝鮮については、東北地方を中心とした中国各地の档案馆、韓国政府記録保存所などに残されている記録資料、在中国、韓国および日本の公刊資料を調査・分析するとともに、米国議会図書館の調査を進める。「帝国日本」における被支配民族移動の中心である朝鮮人の活動に関わって、研究の舞台となる台湾、中国東北などの現地での聞き取り調査を実施する。

台湾については、中華民国国史館台湾文献館所蔵の「台湾総督府文書」をはじめとした台湾および日本国内に残存した記録資料・公刊資料を調査する。

ロシア極東・樺太については、共同研究において確認されたウラジオストックおよびユジノサハリンスクのアルヒーフ調査を行う。ロシア極東の文書館利用については、アレクサンドル・コスタノフ(サハリン州文書館局長)と連絡を密にしており、調査困難の危惧はない。

移動・動員政策については、帝国日本の移動・動員に関わる政策の形成過程を国立公文書館や外務省外交史料館等の所蔵資料の再検討や、米国議会図書館や関係各国の記録資料から解明する。海外では、ヨーロッパロシア、ロシア極東、中国東北地方、韓国、アメリカ合衆国への資料調査、国内では東京、北海道への資料調査を行う。

(3) 以上のような各人の調査を前提に、研究代表者・研究分担者を中心とする研究会を継続的に開催し、年1~2回共同の資料・現地調査を実施する。

## 4. 研究成果

(1) 研究代表者・研究分担者による海外での共同調査を実施した際に、現地の研究者等と研究会等を開催し情報交換を行うとともに、交流を深めることができた。

2013年8月末から9月初めにかけての米国調査では、ハーバード大学で本研究に関わる移動と動員をテーマとしたワークショップを開催した。その概要を以下に記す。

2014年1月に実施した台湾調査では、台南で台湾先住民の市議会議員と懇談して、日台の先住民政策や脱植民地化について意見交

換した。また、台北において国立台湾大学歴史学部で研究会を持った。

2014年8月における韓国調査では、ソウル大学洛星台研究所、忠南大学でセミナーを開き、韓国において植民地研究を牽引してきた研究者と意見・情報交換などの研究交流を行った。また、忠南大学の研究者とともに済州島を訪れ、済州大学の研究者から戦前～占領期済州・大阪間における済州人の移動実態に関する説明を受けた後に、済州4・3平和記念館等で資料調査と聞き取り調査を行った。

2015年9月の南京事件や重慶爆撃等に関する中国調査では、上海・南京・重慶の資料館での調査と、中国人研究者との研究会を行った。

(2) 本科研のテーマに関して東アジアレベルでの議論を喚起し、これまでの成果を広く一般の人々や研究者に公開するために、2014年10月18・19日に立命館大学で国際シンポジウムを開催した。18日のシンポジウム「東アジア研究の架橋」では、韓国・漢陽大学から招いた6名の研究者、中国・北京大学から招いた3名の研究者と、参加者40名とともに討論を行った。19日のシンポジウム「国民国家論と民衆史」では、研究代表者と、国内・アメリカから招いた現代歴史学の第一線の研究者5名が登壇した。本会には全国から約100名の参加者があり、活発な議論を交わすことができた。なお、19日のシンポジウムについては、小樽商科大学『商学討究』65-4(2015年)に「シンポジウム・グローバルゼーションと現代歴史学 シンポジウムへの経過」として内容を掲載した。

(3) 本科研のテーマに関し東アジアレベルの議論を喚起し、これまでの研究成果を広く研究者に公開するために、2015年10月25日に京都市のキャンパスプラザ京都で国際シンポジウム「敗戦70年 - 東アジアの脱植民地化 - 」を開催した。当日は、台湾・韓国・沖縄から各1名の研究者と、日本人の占領史研究者1名を招き報告を行ってもらった後、参加者約30名で活発な議論を交わすことができた。なお、このシンポジウムについては、小樽商科大学『商学討究』67-1(2016年)に「シンポジウム・敗戦70年 - 東アジアの脱植民地化 - 」と題して、その内容を掲載した。

(4) 2016年2月末から3月初めにかけて、「帝国」崩壊前後の移動をテーマに、沖縄本島・石垣島・西表島の共同調査を実施した。その際に、安良城盛昭氏との論争で著名な西里喜行氏から聞き取りを行った。現在、出版を目指して折衝中である。

(5) 本科研の成果を、今西一と飯塚一幸の編集により『帝国日本の移動と動員』という書名で大阪大学出版会から刊行すべく、2016年秋に科研費の研究公開促進費に応募し、採択された。本書の意義は、帝国の形成・膨張・解体という時間的にも、帝国の領域である台湾・樺太・朝鮮・満洲(中国東北)・太平洋諸島という空間的にも、全体を対象とし

て移民と動員の具体相を明らかにしようと試みた、帝国日本において強制的・暴力的に推進された移民・動員問題は、日本の敗戦によって解決・解体されず、ポストコロニアル問題として戦後から現代にまで受け継がれていることを示した、そうした強制・暴力の下でも、主体的な選択により移動した人々が多数存在し、帝国日本に生活者によって媒介された独自の時空間が広がっていたことに着目した点にある。いわば、帝国の暴力性と移動の主体性が併存する実態とその関係性を解き明かそうとしたのが本書である。

本書は、序章および三部から成り、研究代表者(今西一)と、研究分担者10名(石川亮太・飯塚一幸・中村平・天野尚樹・三木理史・石原俊・水谷清佳・井濶裕・広瀬玲子・玄武岩)が執筆している。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

今西一、帝国日本の「遺産」と戦後社会、小樽商科大学商学討究、査読無、67-1、2016、1~10

三木理史、1920年代南満洲鉄道の旅客輸送 - 漢人出稼者輸送との関係を中心に -、地理学評論、査読有、89-5、2016、234~251

松田京子、研究史 植民地研究の展開と「文化」研究、日本思想史学、査読無、48、2016、52~64

石川亮太、華僑・華人の視点から見たアジアの中の朝鮮開港、歴史批評、査読有、114、2016、82~112

石川亮太、開港期釜山の日本人商人と水産会社、民族文化研究、査読有、69、2015、417~463

石原俊、解除されない強制疎開 - 「戦後70年」の硫黄島旧島民、現代思想、査読無、43-12、2015、54~67

白木沢旭児、戦時期華北における農業問題、農業史研究、査読有、48、2014、29~39

玄武岩、日韓関係の形成期における釜山収容所 / 大村収容所の『境界の政治』、同時代史研究、査読有、7、2014、41~58

広瀬玲子、植民地から本国へ - ある女性植民者二世の葛藤 -、移民研究年報、査読有、19、2013、19~37

[学会発表](計9件)

玄武岩、在韓日本人女性の戦後、ワークショップ「帝国の解体と女性 - 断絶 / 連続する脱植民地の生活世界 - 」2016年9月26日、北海道大学（北海道・札幌市）

天野尚樹、樺太における「国内植民地」の形成：「国内化」と「植民地化」、サハリン・樺太史研究会例会、2016年2月13日、北海道大学（北海道・札幌市）

飯塚一幸、日清・日露戦争研究の現在、大阪大学歴史教育研究会例会、2016年1月16日、大阪大学（大阪府・豊中市）

中村平、トゥルク民族の脱植民地化と日本の植民地責任、第8回日台原住民研究フォーラム・トゥルク対日戦争史国際シンポジウム、2015年10月31日、花蓮太魯閣国家公園布洛湾管理处（台湾・花蓮市）

河西英通、Moving History: Emotion and Social Movements in Modern Japan、Association of Asian Studies in Asia 2015、2015年6月22日、台北中央研究院（台湾・台北市）

塩出浩之、近代アジア太平洋地域における日本人の移民と殖民、ワークショップ「東アジア史の観点から見た日本史」、2014年12月15日、東北亜歴史財団（韓国・ソウル）

石川亮太、1880年代釜山日本租界の中国人居住問題：開港場をめぐる移動と制度の相克、2014東アジア海港都市国際学術会議「海域世界における移住とコミュニティ」、2014年11月28日、韓国海洋大学国際海洋問題研究所（韓国・ソウル）

広瀬玲子、女性植民者の植民地認識とその変遷 - 帝国の崩壊・引揚げを挟んで、国際シンポジウム「敗戦後引揚げた日本人の記憶のダイナミズムと植民地認識」、2014年11月21日、高麗大学亜細亜問題研究所（韓国・ソウル）

今西一、帝国日本と国内植民地、第111回史学会大会、2013年11月9日、東京大学（東京都）

〔図書〕（計9件）

三木理史・天野尚樹他、一般社団法人全国樺太連盟、樺太40年の歴史：40万人の故郷、2017、350

白木沢旭兎他、北海道大学出版会、北東アジアにおける帝国と地域社会、2017、505

白木沢旭兎、吉川弘文館、日中戦争と大陸経済建設、2016、301

飯塚一幸、吉川弘文館、日本近代の歴史3 日清・日露戦争と帝国日本、2016、243

石川亮太、名古屋大学出版会、近代アジア市場と朝鮮、2016、568

天野尚樹他、成文社、日本領樺太・千島からソ連領サハリン州へ、2015、192

塩出浩之、名古屋大学出版会、越境者の政治史 - アジア太平洋における日本人の移民と殖民 -、2015、503

松田京子、有志舎、帝国の思考 - 日本「帝国」と台湾原住民 -、2014、274

石原俊、弘文堂、〈群島〉と歴史社会学 - 小笠原諸島・硫黄島、日本・アメリカ、そして太平洋世界、2014、202

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

今西一 (IMANISHI, Hajime)  
大阪大学・文学研究科・招へい教員  
研究者番号：20133621

(2) 研究分担者

石川亮太 (ISHIKAWA, Ryota)  
立命館大学・経営学部・教授  
研究者番号：00363416

石原俊 (ISHIHARA, Shun)  
明治学院大学・社会学部・准教授  
研究者番号：00419251

白木沢旭児 (SHIRAKIZAWA, Asahiko)  
北海道大学・文学研究科・教授  
研究者番号：10206287

井潤裕 (ITANI, Hiroshi)  
北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・境界研究共同研究院  
研究者番号：10419210

松田京子 (MATSUDA, Kyoko)  
南山大学・人文学部・教授  
研究者番号：20183707

田中隆一 (TANAKA, Ryuichi)  
公益財団法人世界人権問題研究センター・その他部局等・専任研究員  
研究者番号：20647820

河西英通 (KAWANISHI, Hidemichi)  
広島大学・文学研究科・教授  
研究者番号：40177712

飯塚一幸 (IIZUKA, Kazuyuki)  
大阪大学・文学研究科・教授  
研究者番号：50259892

塩出浩之 (SHIODE, Hiroyuki)  
琉球大学・法文学部・准教授  
研究者番号：50444906

水谷清佳 (MIZUTANI, Kiyoka)  
東京成徳大学・人文学部・准教授  
研究者番号：50512117

平子玲子 (TAIRAKO, Reiko)  
北海道情報大学・情報メディア学部・教授  
研究者番号：60216596

三木理史 (MIKI, Satoshi)  
奈良大学・文学部・教授  
研究者番号：60239209

玄武岩 (HYON, Muan)  
北海道大学・メディアコミュニケーション学院・准教授  
研究者番号：80376607

中村平 (NAKAMURA, Taira)  
広島大学・文学研究科・准教授  
研究者番号：80632116

天野尚樹 (AMANO, Naoki)  
山形大学・人文学部・准教授  
研究者番号：90647744

(3)連携研究者 ( )

研究者番号：

(4)研究協力者 ( )